

ボランティア かわらばん

2014年

SINCE 1977

7月 No.380

編集発行 ながのボランティアかわらばん編集委員会

【発行所】

〒380-0813 長野市緑町1714-5

長野市ボランティアセンター内

TEL:026-227-3707 FAX:026-224-1513

URL <http://vnetnagano.or.jp>

E-mail:volucen@vnetnag



ふれあい福祉センター 開設20年!!

多様なボランティアが
集まり交流が広がる

ここでたくさんの
人に出会えた

つながれる
集まれる場


1階はボランティア
センターだよ!

ボランティアの皆さん、獅子&大蛇(!)、社協職員、みんなで記念撮影! 看板文字は、書道家の伊藤倫さんに書いていただきました



みんながネットワーク

このかわらばんは信販販売センターのご好意で
一部の地域へボランティアで配布していただいています。

「ボランティアかわらばん」は共同募金  のご協力で発行しています。

表紙題字：青木孝子さん

1977年

長野市社協が「ボランティア交流集会」を開催

「ボランティアかわらばん」創刊

長野ブロックボランティア交流研究会開催。拠点づくりの必要性をアピール

1978年

ボランティアの拠点づくりをすすめる市民連絡会発足

柳町の福祉会館内に「ボランティア広場」開設

1982年

地域ボランティアの拠点「どんぐりの家」開設。長野ボランティア協会設立

1983年

長野市社協2階にボランティアコーナー開設。県内初のボランティアコーディネーター配置

1987年

社協会館に「ボランティアセンター」開設。講座開催や、グループ活動の拠点に第1回「ボランティア活動文化祭」開催

1989年

「ボランティア連絡協議会」設立。新センター建設へ意見集約を行い、行政にも提言。拠点づくりの中心に

新センター設計企画検討会。

「出会い・憩い・学び・創造・発表・表現・仲つき・調整・支援」の場となる

「グリーンハーバー構想」を提案

ボランティアによるボランティアの「活動拠点」としてふれあい福祉センターがどんな20年をたどり、この場所から、どんなつながりや広がり、生まれてきたのか、開設当時からセンターを知る皆さんにお聞きしました。

ボランティア 自分たちの活動場所を自分たちの力で創る

浅川信隆さんは、長野市でボランティア活動が活発になり始めた平成4年、同じ思いを持った仲間と集まってボランティア連絡協議会（以下V連）を設立し、初代会長に。V連は、個々では届けにくかった「ボランティアの声」を、行政に発信できる存在になりました。その頃、ボランティアセンターの移転が決まっていたため、新しくできるセンターは「若い人からお年寄りまでわいわい楽しく、気軽に寄れる場」になるよう設計段階でV連から提案し実現しました。「自分たちの活動場所を

ボランティア 集まりつなげる場利用者が育てる

自分たちの力で創りあげよう」としたことで、仲間の気持ちもひとつに。その後、V連では「ボランティア市民会議」を定期的に開き、休日や平日夜間のセンター利用実現につながっていききました。（取材・編集委員）

「当時の若者がセンターと一緒に年をとって、お互いに、おじいちゃんおばあちゃんになっちゃったのよ」と話してくれたのは、音訳ボランティア「やまびこ会」代表の山口和子さん。センター開設後「自分たちが利用するセンターは、自分たちで考えていこう」と、自発的に「利用者連絡会」を立ち上げました。「ボランティアが集まりつなげる場として、どうあるべきか」と色々な意見を出し合い、ボランティアの人材育成や交流を目的に、クリスマス会やコンサートも開催してきました。

コーディネーター 「風の人」として長野から活動広げる

「人材育成には『まずは外を知らなきゃ』と、バザーを開いて費用を自分たちで集め、県内の様々な場所に研修に行きました」「活動者」として振り返ったこの20年は、センターを自分たちの手で育てながら共に歩んできた歴史でもあります。（取材・坪井彩耶子）

緑川圭子さんは、ふれあい福祉センターができる前の「ボランティアコーナー」で、コーディネーターとして勤務していました。当時は、ボランティアが縦、横、ななめにつながり、活動の拠点づくりに奔走していた時期。その取り組みが実を結び、今日のふれあい福祉センターが形作られました。転勤で長野に来た緑川さんは、「ボランティア活動には『地の人』と、活動の種を運ぶ『風の人』が要る」という話を聞き、自分は「風の人」として頑張ろう

コーディネーター 利用者の熱い思い仕事のエネルギーに

と、様々な活動をつなげていきました。出身の東京に戻った後は、長野で学んだ「善意を活かすチャンスを作る」という思いを大切に、ボランティアコーディネーターの仕事が続けました。そして施設長となったデイホームは、ボランティアの拠点となり、毎日賑わっていたそうです。退職後も、介護をしながら地域でサロン活動を続け、長野からはばっていた「風の人」として活躍しています。（取材・駒村秋江）

ボランティアセンターに勤務して2年目に、ふれあい福祉センターがオープンし、先輩のコーディネーターが退職したこともあって、とても不安で必死でした。でも当時、センター開設に関わったボランティアの人たちの熱い思いが、私のエネルギーになっていました。オープンしてしばらくは視察も多く、対応に追われ

1993年
新センター設計の基本案決定

1994年
ふれあい福祉センター
開設！

1995年
「阪神・淡路大震災支援ボランティア委員会」設置

1996年
「全国ボランティアフェスティバル」が長野で開催

2000年
「ふれあい福祉センター」がボランティアの要望で休日開館、夜10時まで使用可能に

2001年
ボランティア国際年

2003年
長野市ボランティアセンターキャラクター「いつも」誕生

2005年
人材・物品・資金を活かす「ながのボランティア・市民活動支援ネットワーク」設立

2011年
地域活動拠点づくりの研修を兼ね「まちの縁側づくり講座」開催

2014年
東日本大震災発生。市内ボランティア団体と長野市社協が立ち上げた「長野市災害ボランティア委員会」発足

「ふれあい福祉センター」開設20年！

ていたことを思い出します。また、1階の丸テーブルは不登校の子どもたちの居場所にもなっていました。阪神淡路大震災が起きたときは、そうやって集まっていた若い人たちが「俺たちが現地へ行く」と手を挙げてくださいました。(細野光江)

ボランティア
多くの出会いや成長
青春のすべて！

開設当初からセンターで活動する金木芳樹さんは、

当時高校生。ボーイスカウト経験者だった金木さんは、毎年開催されていた高校生ボランティアスクールに参加し、以降就職してからもボランティアセンターのイベント司会やシステム作りなどに関わっています。

現在2児の父親でもありますが、奥様との出会いはセンターでのボランティア活動がきっかけです。

「高校時代に居場所を求めて参加したボランティア活動は、多くの出会いや自分の成長につながり、お金には変えられない貴重な経験となつています。これからもまだまだ続けていきたい」と笑顔で語ってくれました。(取材・富山裕介)

ボランティア
受付から見つめた
センター20年の歴史

旧ボランティアセンターの地下室で有志が話し合いを重ね、ボランティアセンターを支援する、受付ボランティア「よりいい会」が発足しました。

「よりよく発展する」「より使いやすく」「より温かく接する」「より寄りやすい」が理念です。ふれあい福祉センター開館と同時に支援が始まりました。

開館翌年に起きた阪神淡路大震災では、問い合わせや物資の受け入れ、ボランティアの派遣など、受付の仕事も増え、毎日会員が詰めて協力しました。

長野オリンピックとパラリンピックが開催された時は、さらにボランティアが増え、連日センターは人であふれていました。

20年という年月には、枚

挙できないほどの歴史があります。現在も「よりいい会」は、来館者の皆さんに好感を持っていただき、ボランティア活動に少しでもお役に立てるように活動しています。(鶴田多け子)

**ボラセン
運営委員**
拠点が人をつなぎ
活動が広がる

私が昭和40年代に勤務していた、東京の(社)日本青年奉仕協会ボランティア活動センターでは多くの若者が育っていました。そこでの経験や、イギリスへの視察、大阪ボランティア協会の動きを知り、小地域拠点の重要性を確信しました。

昭和50年に長野に帰ると、県・市社会福祉協議会がボランティア活動推進を始めました。出会った人々と長野や松代でのボランティア拠点作りに取り組み、長野ボランティア広場や松代支所内ボランティアコーナー開設へつながりました。

そうした取り組みが、ふれあい福祉センター開設へと発展し、小地域拠点が設

**ボラセン
運営委員**
ヒト・コト・モノ
つなく居場所・拠点

さまざまボランティアの想いが集まってできた「ふれあい福祉センター」、その中核機能は何と云っても「ボランティアセンター」です。

20年間に渡り、ボランティア活動する人はもちろん、誰をも排除せず、すべての人を受け入れ、人々の「安心居場所」「拠点」であり続けてきました。

長野市内各地域でも、個からできるささやかな活動から、大きな団体の活動まで、うねりとなって広がっています。

これからも、ヒトとヒト、モノとモノ、コトとコトをつなぐ役割を、このふれあい福祉センター、ボランティアセンターが担って欲しいと思います。(長野市ボランティアセンター運営委員 小林博明)

ふれあい福祉センターを利用している皆さんの

思い出募集の 投稿箱から・・・

朝

夕、毎日通勤時に社協の建物ができるのを見ています、すてきなものができました！

だんだんと1階の窓ごしに人が増え、そのうち学生も夕方来て活動しているのがわかりました。7年くらいだったか、私たちが唱歌と童謡の会で5階ホールを使用させてもらい、音響も良いし、ピアノもあって、気分良く発声もしました。職員の人たちもみんな親切で、いやな顔ひとつしなかった。(歌の好きな女性・60代)

当

時の思い出。スペシャルサマーキャンプ(＊)。たくさん人の思い出をつくりました。キャンプで知り合った人たちとも仲良くなりました。たくさんのお出合いに感謝したい。いろんな人たちにたすけてもらいました。ありがとうございます。(山岸寛弥・30代)

昭

和56年に「国際障害者年」が制定されたのを契機に、障がいを持つ人たちの社会参加を応援しようと、ボランティア

コーディネーターの支援を得て「ミニハンディキャブ運営委員会」が発足しました。平成元年に「フレンドシップ輪陸会」に改称。ボランティアによる送迎は年間680回程度対応してきましたが、平成20年頃には運転会員の高齢化および運転資格の問題に伴い、活動は年2回のバースハイキング・車いす体験指導・その他利用会員の外出介助は年間数件になっています。(フレンドシップ輪陸会・80代)

利用者会議で・・・

この場所が
あってよかった！



- ・拠点があるということとは活動しやすい。
- ・会議室を無料で使える。

- ・年齢幅広く活動ができる場！
- ・土日・夜もやっていること。
- ・子どもたちが地域で育つ場になっている。
- ・コーディネーターがいることで、ボランティア活動の目的をはっきりさせて活動できる。

- ・ボランティア活動のバックアップがあつてよかった。
- ・ボランティアの総合受付となっているのでよかった！
- ・講座は利用者もスタッフも育つ！
- ・広報のやり方など知識や方法を相談し、教えていただくことができました！

気軽に入れる。

- ・活動の打ち合わせが気軽にでき、実践につながる事ができた。

いつも人が集まっています。

- ・情報の収集や交換の場として欠かせない。
- ・活動を知ってもらうことができる。

人と出会える・つながれる・集まれる場となる。

- ・ボランティア同士の横のつながりができた。
- ・ボランティア活動している人ややりたいと思っているたくさんの人に出会えた。
- ・1階のテーブルが使いやすい。
- ・和室は子連れで来やすい。
- ・ちよつとした飲食もできるのがいい。

喫茶コーナーがおいしい！パンもおいしい。

- ・コピーや印刷が安くでき、機材が借りられるのはありがたい。

未来へ向け
メッセージ
を希望



- ・空中庭園を！
- ・子どもたちが水遊び、雪遊びを安全にできる。

子どもから老人まで集まる場所になればと思います。

- ・ボランティアのフェイスブックのような場にする。
- ・こんなセンターが南の地区にもほしい！
- ・自分のグループの発表の場があるといい。
- ・グループとしても個人としても、他グループと交流していきたい。

次のステージ
に向けて
スタート！！





開催しました!

地域福祉推進セミナー

第1回ボランティア・地域活動コーディネーター力養成講座

6月12日東部文化ホールで地域福祉推進セミナーが行われました。地区の福祉活動に携わる皆さんをはじめ200名を超す方が参加。住民支え合いの事例から多くのヒントを得る場になりました。参加された方の感想から、その様子をお伝えします。

地域の福祉力を考える

参加者 成竹 精一

昨年度から、柳原地区の「まちづくり委員」になったこともあり参加しました。前半の市川一宏さんの講演、後半のシンポジウムにおいて、それぞれ様々な地域福祉の取り組みが紹介されました。率直な感想としては「どここの地域も同じようなことを考えているんだなあ」ということ。柳



講師の市川一宏氏 参加者と一体となってお話を進められました

原地区でも他地区と同じような課題を抱えています。住民関係の希薄化・高齢化・参加者の固定化。20〜50歳代の方々にどうやって参加してもらおうか。特にその課題解決の手段として「世代を超えて集まることのできる居場所づくり」が必要であるということは、ほとんどの方がうなづくことのようにです。しかし、それを実行するにはハードルがいくつもありそうだというのも皆感じています。それに対して市川さんのアドバイスはとても参考になりました。特に「気づきをそのままにしな



活動の事例をお話するシンポジストの皆さん 白熱しました!

い。まず思い立ったらやってみる」「生活の延長で無理なく自然体でおこなう」ということ。とても大事なことと感じました。また、私自身10年前に障がいを負って現在車いす生活を送っているのですが、古牧地区川端区の防災訓練を紹介してくださいました。吉野さんの「ハンディがあるからと気おくれをしてほしくない。助けてもらうだけでなく、できることをできる人がする。そういう関係を(事業を通じて)作っていく」という方針に大変共感しました。私もおっくうがらず地域の事業に参加し、より多くの地域の方々とまずは「知り合い」になることから始めていこうと思います。

現場状況 5月分

(取りまとめ期間:5月1日~5月31日)

相談件数	
ボランティアしたい	42 件
ボランティア求む	32 件
情報求む	44 件
ボランティア活動支援	103 件
ボランティア活動上の悩み	2 件
よろず相談・悩みごと	4 件
ボランティア保険・事故処理	6 件
その他	19 件
合計	252 件

問い合わせ件数	
会議室予約	247 件
伝言	292 件
情報提供	383 件
機材貸し出し	269 件
チラシ・掲示板	154 件
その他	159 件
受付(よりいい会等)	418 件
合計	1922 件

その他	
情報カード受付	70 件
機材貸し出し	54 件
ボランティア保険加入	
ボランティア活動保険	63 件
行事務用保険	23 件
在宅福祉サービス総合保険	0 件
送迎サービス補償保険	2 件
合計	212 件

日時：8月27日(水) 14：00～16：00
 場所：三陽保健福祉センター／対象：60歳以上
 定員：25人／参加費：100円
 申込：8月18日(月)～20日(水) 9：00～16：00
 問：かがやきひろば三陽 (小宮山)／TEL:026-259-2411

問：長野市市民公益活動センター (廣田)
 TEL：026-223-0051

■サマーチャレンジボランティア受付中！

夏のボランティア体験プログラム「サマーチャレンジボランティア」の受付が始まりました。今年こそ、ボランティアに参加してみませんか？

申込：～7月10日(木)まで
 平日 10：00～19：00
 土日 10：00～16：00

申込場所・問：長野市ボランティアセンター
 TEL：026-227-3707



お知らせ

■フリーペーパー「Apple School」発行

毎回テーマを決め、それに沿っていろいろな人いろいろな視点から学校についての記事を書いていただきます。自分の見つけた生き方に胸を張るきっかけになればと思います。



長野市ボランティアセンターに ご寄付ありがとうございました！

ハガキ、切手、テレホンカード、ベルマーク等(5月24日～6月23日分)

信越総合通信局、パソコン遊楽くらぶ、かがやきひろば篠ノ井、古牧ボランティアセンター、石関みち子、信州新町福祉センター、関幸代、大岡介護サービスセンター、宮澤恵里香、長野市介護保険課、市民課(敬称略) 有効に活用させていただきます。

長野市ボランティアセンターで開催される、ちょっとボランティアの場です。いずれも申込みは不要です。どなたでもお気軽にどうぞ♪

🍃 エコ封筒を作ろう

古いカレンダーで封筒を作ります。
 7月1日(火) 10：00～12：00



👑 ながの福ソウくんプロジェクト

小物づくりをして、売上で被災地の小学校に本を送ります。どなたでもお気軽にご参加いただけるサロンです。

〈昼の部〉7月10日、24日、8月28日(木)

13：30～15：30

〈夜の部〉7月22日、8月26日(火) 18：30～20：30

🌿 グリーンカフェ

絵の具などを使って、植木鉢をかわいく変身させちゃおう！
 7月15日(火) 13：30～／参加費：100円
 持ち物：特になし



◆6月21日公開審査会開催 助成額決定しました◆

【ボランティア活動振興助成金】

団体名	助成額
「ながの祇園祭」おもてなし隊	¥ 50,000
おやこ楽校	¥ 50,000
チワワすまいるプロジェクト	¥ 50,000
ブルースカイ出合いの広場	¥ 30,000
長野なかじょうテレビ局 (NNTV)	¥ 50,000
食育劇団ええ～っこ	¥ 40,000

【ささえあい応援金】

団体名	助成額
まちの縁側はぐくみプロジェクトながの	¥ 100,000
共和読みがたりの会「ひめりんご」	¥ 100,000
ながの子育てネット	¥ 50,000
ながの子どもと本をむすぶ市民の会	¥ 50,000

ボランティア情報

イベント

■カマレポカフェ開催しま～す

鎌仲ひとみ監督の次回作「小さき声のカノン」。その取材レポートを観ながら、福島のこと、長野のこと、いろいろお話をしませんか？ お茶を入れてお待ちしています。

日時：7月11日（金）10：30～12：00

場所：長野市ふれあい福祉センター 和室

参加費：500円／問：りんごほっぺの会（三井）

TEL：090-5527-5873

E-mail：ringohoppe.nagano@gmail.com

■無料学習サポートきずな塾

一人ひとり、ていねいに教えます。交流スペースではおしゃべりもOK。ほっと一息つける居場所です。サポーターも随時募集しています。

日時：7月11日、18日、25日（金）17：30～19：30

場所：長野中央介護センターつるが 1階

対象：小学生～高校生／講師：元教員・学生などのボランティア／参加費：無料／問：長野医療生協（宮崎）

TEL：070-6988-2771

e-mail：y-miyazaki@healthcoop-nagano.or.jp

■おしゃべりサロン ゆるりの会

ご一緒にゆるりとした時間を過ごしませんか。お茶を飲み、時にはちょっとした作業をします。どなたもお気軽にお越しください。

日時：7月23日（水）、8月27日（水）10：30～12：00

場所：長野市ボランティアセンター 1階テーブル

参加費：無料

問：おしゃべりボランティア野菊（小山）

TEL：026-295-6300



■「歌うヨガ」で心も体も健康に

歌うヨガはメロディーにのせて歌うことで体と心の疲れ、ストレスを取り健康な体を作ろう！というものです。どなたでもかんたんにできます。

日時：7月11日、24日、31日、8月5日、23日

15：00～16：00

場所：長野市ふれあい福祉センター4階

対象：どなたでも／参加費：無料／問：太陽（大島）

TEL：080-4618-5387／E-mail：olapina@yahoo.com

■ロビーコンサート「ザ・ブルーグラス」

軽快なアップテンポのリズムからスローテンポのバラッドと楽しいトークを交えての演奏をお楽しみください。

日時：7月12日（土）19：00～（開場18：30）

場所：長野市東部文化ホール／参加費：無料

出演：Out of Bounds／問：長野市東部文化ホール（黒石）／TEL・FAX：026-296-8540

■障がい者スポーツ講習会

健やかな毎日を過ごすために軽い運動をしましょう！気軽に参加してみませんか。

種目：【水泳】7月13日（日）13：30～15：30 長野県障害者福祉センターサンアップル 【フロアホッケー】

7月26日（土）13：30～15：30 長野市障害者福祉センター／定員：20人／対象：市内在住・在勤の中学生以上の障がい者／参加費：無料／問：長野市障害者スポーツ協会（赤松）／TEL・FAX：026-266-8834

■絃奏の宵～ギターとチェロのコンサート～

長野市出身の篠原さんを中心に、ギターとチェロのアンサンブルをお届けします。耳にする機会の多いクラシックの名曲をお話し付きで楽しくご案内いたします。

日時：7月25日（金）18：30～／場所：八十二別館1階ロビー

出演：篠原正志さん（ギター）他

入場料：無料／問：財団法人 八十二文化財団（傳田）

TEL：026-224-0511／FAX：026-224-6452



講座

■おしゃべりサロン（出前講座）

あなたの心、元気ですか？～ストレスと上手なつきあい方～日々を健康に楽しく過ごすために市の保健婦さんからお話を頂きます。どうぞ皆さんお出かけください。

日時：7月15日（火）13：30～15：30

場所：ふれあい福祉センター 4階和室

講師：佐藤敦子さん（長野市保健所・保健師）

参加費：100円／問：あいまい会（蟻川）

TEL・FAX：026-244-4043

■食と健康講座（追加募集）

皆さんは毎日の献立に悩むことはありませんか？毎日同じような献立が並び食卓に変化をつけたい・・・。冷蔵庫にある食材でいつもとちょっと違う料理を食卓に並べてみませんか？

日時：7月～12月（月1回）

場所：三陽保健福祉センター 2階栄養指導室

募集定員：9人（初心者優先の上先着順）

対象：60歳以上 全日程参加できる方

持ち物：エプロン 三角巾 ふきん 筆記用具

参加費：受講料600円 材料費3,000円

講師：平野澄子さん

問：かがやきひろば三陽（小宮山）／TEL：026-259-2411

■長野市で見られる野鳥の生態

私たちの身近なところで生息している野鳥の生態について、貴重な野鳥のスライド写真と共にお話していただきます。

ボランティア情報



8月号は7月31日(木)発行予定。情報掲載希望は7月16日(水)までにお問合せください。〈TEL: 026-227-3707〉

ボランティアセンターの講座

ボランティア・地域活動

コーディネート力養成講座 第3回

ボランティアとは？

ボランティア活動をしたことがある方も、ない方も、してもらいたい方も、みんなで一緒に「ボランティア」の意味・価値・役割について考えてみませんか？ 知っているようでいて知らないボランティアのホントを、軽妙な語り口の講師・筒井のり子さんと楽しく学びます。毎年人気の講座です。定員がありますのでお早めに！

日時: 7月29日(火) 10:00~16:00

場所: 安茂里公民館 2階集会室

講師: 筒井のり子さん(龍谷大学教授)

受講料: 1,000円

定員: 30人(先着順)

♪ 今年の参加者の声から・・・♪

- ・ボランティアの本当の意味を実感しました。立場の違う方々と和気あいあいと意見交換ができた事を嬉しく思いました。
- ・しかける側も主体的に好奇心を持って、ワクワクを大事に活動すること！ マンネリとか義務感はNG。



募集

■「びんずるまつり」に参加しよう！

(参加準備会)

市民総参加の一大イベント「びんずるまつり」を、本当の意味でバリアフリーイベントにするために、障がいを持つメンバーが積極的に参加して盛り上げましょう。

日時: 7月13日(日) 12:00~/場所: 長野市ふれあい福祉センター 4階調理室 /定員: 25人(びんずるまつり当日8月2日は定員なし) /対象: 障がい当事者と関係者(ボランティア含む) /参加費: 200円

問: 精神保健福祉ボランティア ホワイトナッツ (本田)

TEL: 026-226-8740

いつも傾聴でんわ



受け手 養成講座

かけてこられた方の気持ちに寄り添いながら、電話で話をお聴きする「いつも傾聴でんわ」(※)の受け手ボランティアを養成する講座です。

日時: 7月26日(土)・8月2日(土)・9日(土) いずれも 13:00~16:00 (全3回)

場所: 長野市ふれあい福祉センター 5階ホール

対象: 傾聴電話受け手ボランティア活動に関心のある方、全3回受講できる方

受講料: 1,500円

その他: 本講座終了後に専門研修があります

(9月~平成27年2月、全6回、3,000円)

※ ちょっと誰かと話したい、話すことで気持ちが落ち着く。そんなときが誰にでもあります。「いつも傾聴でんわ」はそんなときにかけていただく電話です。

◆◆◆◆ 問い合わせ・申し込み ◆◆◆◆
長野市ボランティアセンター

TEL: 026-227-3707 FAX: 026-224-1513

■じゃん・けん・ほんでボランティア

夏休みを利用して、こども広場じゃん・けん・ほんでボランティア体験をしませんか？

日時: 7月29日(火) ~9月15日(月)

場所: こども広場じゃん・けん・ほん

対象: 中学生以上/活動: 3日間程度(要相談)

参加条件: 7月29日(火)または8月1日(金)の事前研修終了者 /参加費: 500円(ボランティア保険代含む)

問: こども広場じゃん・けん・ほん (伊藤)

TEL: 026-219-0022/FAX: 026-223-0731

